

第7回 台日茶業技術交流会シンポジウム（台湾・桃園市）

2025年7月29日

日本茶産業の部局と戦略



農業・食品産業技術総合研究機構 果樹茶業研究部門

茶業研究領域長 佐藤 安志

本日のお話し

1 日本茶産業の現状

- 1) 日本のお茶と生産動向
- 2) 日本茶の消費動向
- 3) 日本のお茶産地の現状と取り組み

2 新たな基本方針*に基づく施策の概要

- 1) 基本方針の概要
 - ①茶業及びお茶の文化の振興の意義
 - ②お茶をめぐる課題
 - ③今後の茶業及びお茶の文化の振興に関する基本的な方向
- 2) お茶の需要の長期見通し及び生産数量目標
- 3) 茶業の振興のための施策
- 4) お茶の文化の振興のための施策
- 5) 基本方針のポイント（まとめ）

基本方針* ; 「茶業及びお茶の文化の振興に関する基本方針」
(2025年4月改正・農林水産省)

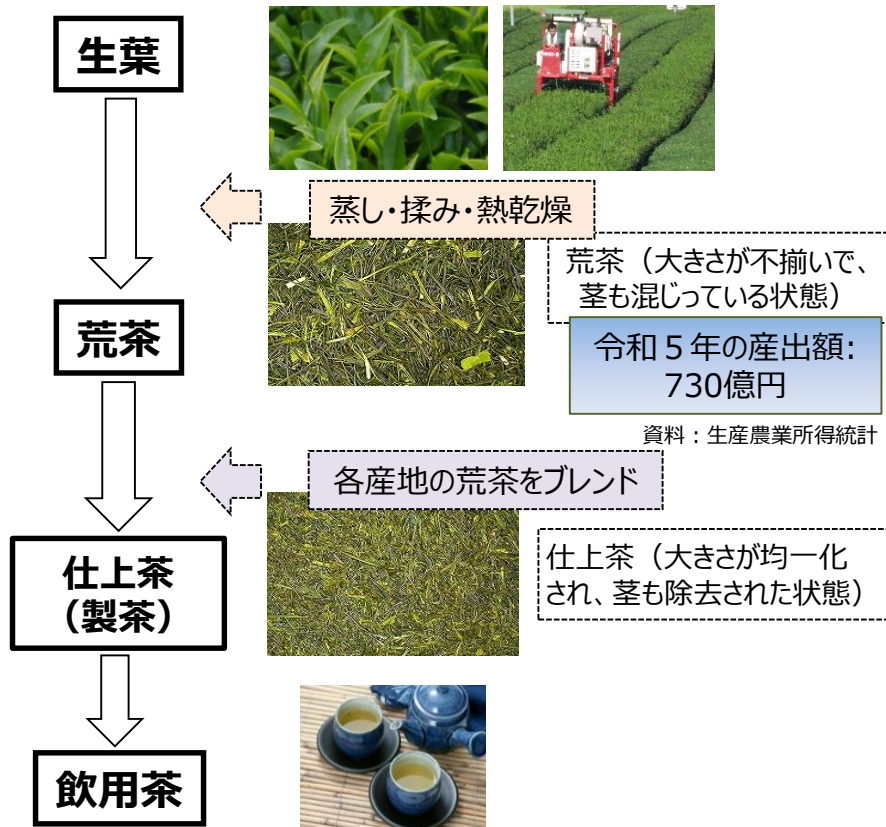
3 農研機構の紹介

- 1) 農研機構の組織と沿革
- 2) 最近の研究成果等の紹介

1) -① 日本のお茶生産

- 日本のお茶は、生葉の収穫後、産地で荒茶に加工され、消費地において製茶にブレンドして販売。**荒茶段階では730億円**の産業規模。
- 主要産地**は、栽培面積順で**①静岡県、②鹿児島県、③三重県、④京都府、⑤福岡県**。上位3県で全国の栽培面積の約7割を占める。**2024年産荒茶生産量**は、**鹿児島県**が統計開始以来、**初の日本一**。
- 各茶産地において、**せん茶、かぶせ茶、玉緑茶、玉露、てん茶**など特色ある茶を生産。






【お茶の形態変化と産業規模】



【お茶の主産県と生産の特色 (2024年度)】

順位	府県名	栽培面積 (ha)	荒茶生産量 (t)	生産の特色
1	静岡	12,800	25,800	「せん茶」、特に「深蒸しせん茶」を主体とした生産。「てん茶」及び「かぶせ茶」の生産が全国3位
2	鹿児島	8,150	27,000	「てん茶」の生産が全国1位。多様な品種構成
3	三重	2,590	5,020	「玉露」及び「かぶせ茶」の生産が全国1位
4	京都	1,500	2,780	「玉露」及び「てん茶」の生産が全国2位
5	福岡	1,480	1,650	「玉露」の生産が全国3位
6	宮崎	1,160	2,640	「釜炒り茶」の生産が全国1位
7	熊本	961	1,200	「玉緑茶」の生産が全国3位
8	埼玉	719	838	「せん茶」を主体とした生産
	全国	35,100	73,900	資料: 農林水産省「作物統計」

1) -① (参考) 日本茶の種類

種類	特徴及び主な産地	荒茶生産割合及び 荒茶価格(2025年)
	せん茶 [特徴] ・最も一般に飲まれるお茶。新芽を蒸して揉んで乾燥させて製造。 [主な産地] ・全国	[生産割合] 49.7% [荒茶価格] 1,197円/kg
	ぎよくろ 玉露 [特徴] ・藁や寒冷紗などで、収穫前20日程度の被覆栽培を行い、煎茶と同様に新芽を蒸して揉んで乾燥させて製造。 [主な産地] ・三重県、京都府、福岡県	[生産割合] 1.0% [荒茶価格] 2,637円/kg
	かぶせ茶 [特徴] ・藁や寒冷紗などで、収穫前7日程度の被覆栽培を行い、煎茶と同様に新芽を蒸して揉んで乾燥させて製造。 [主な産地] ・三重県、奈良県、静岡県、福岡県	[生産割合] 2.6% [荒茶価格] 1,659円/kg
	てん茶 (抹茶) [特徴] ・摘採期前に棚施設等を利用して茶園をよしず、コモ、寒冷紗などの被覆資材で2～3週間程度覆った「覆下茶園」から摘採した茶葉を蒸熱し、揉まないでてん茶炉等で乾燥させて製造。 ・てん茶を茶臼等で微粉末状に製造したものが「抹茶」。 [主な産地] ・鹿児島県、京都府、静岡県	[生産割合] 7.3% [荒茶価格] 3,278円/kg
	たまりよくちや 玉緑茶 [特徴] ・せん茶と同様に新芽を蒸して揉んで乾燥させるが、形を細長く整える工程（精揉）がないため、丸みを帯びた形状である。 [主な産地] ・佐賀県、長崎県、熊本県	[生産割合] 1.9% [荒茶価格] 1,804円/kg

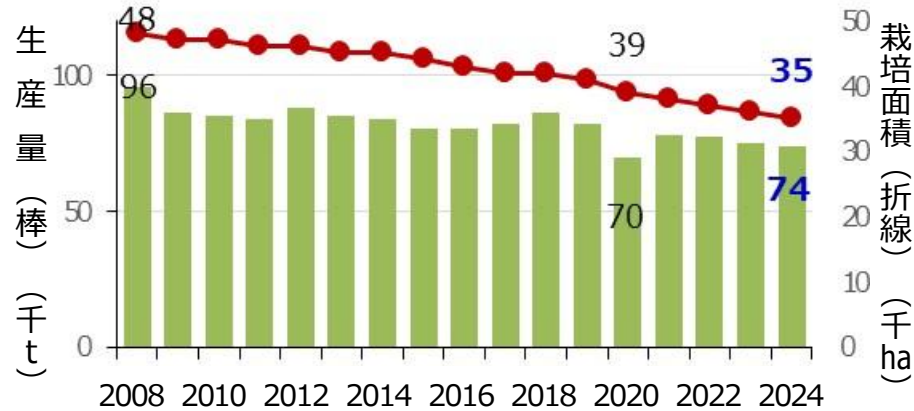
参考：玉露、かぶせ茶及びてん茶を称して「おい茶」という。

資料：荒茶生産割合及び荒茶価格（全茶期）は全国茶生産団体連合会調べ

1) -② 日本のお茶の生産動向

- 栽培面積は緩やかに減少。生産量は7万トン台で推移。
- 茶期別生産量では、近年、主にリーフ茶向けの一番茶の生産量は減少しているが、ドリンク等向けの安価な四番茶・秋冬番茶の生産量は増加傾向。
また、需要の高まりを受け、てん茶の生産は増加傾向（2024年/2014年 比：約2.7倍）。
- 茶農家1戸当たりの栽培面積は拡大が進んでおり、特に鹿児島県では規模拡大が顕著。

【お茶の作付面積・生産量の推移】



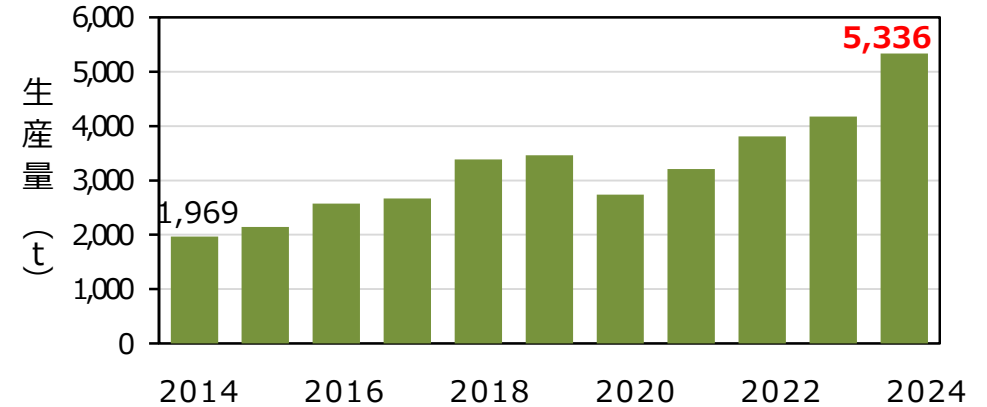
資料：農林水産省「作物統計」

【茶期別生産量 (t) の推移】

	2008	2013	2019	2023	2024
一番茶	39,600	30,800	29,786	27,388	28,818
二番茶	28,000	26,000	20,869	20,121	17,807
三番茶	7,360	6,420	5,862	5,450	5,217
四番茶・ 秋冬番茶	18,530	19,620	22,851	21,634	21,518

資料：全国茶生産団体連合会調べ

【てん茶の生産量の推移】



資料：全国茶生産団体連合会調べ

【主産県における農家1戸当たりの栽培面積 (ha) の推移】

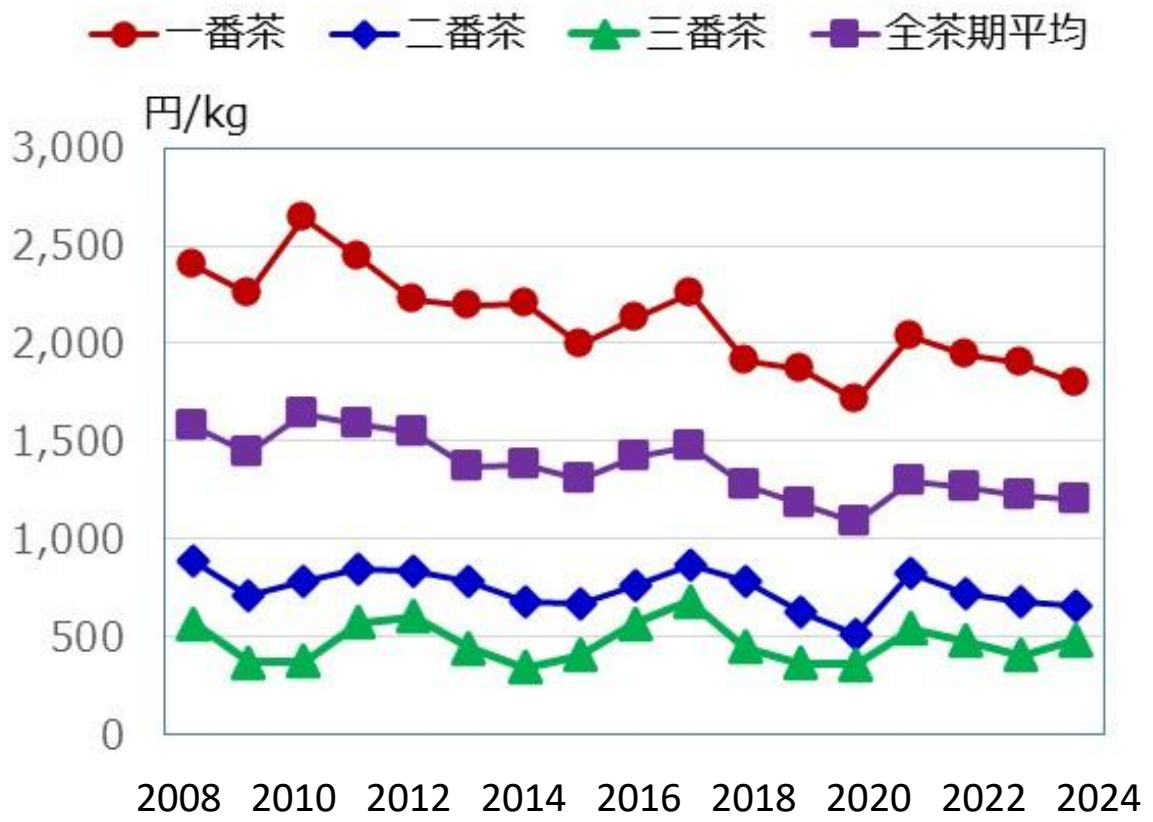
	静岡	鹿児島	三重	京都	福岡	宮崎	熊本
2005	0.8	2.1	0.9	1.1	0.8	1.7	0.8
2010	1.0	3.0	1.3	1.3	0.9	2.2	1.1
2015	1.2	3.3	1.5	1.5	1.1	2.1	1.1
2020	1.4	3.6	2.0	1.6	1.3	2.0	1.3

資料：農林水産省「農林業センサス」注：2015年までは販売農家1戸当たり2020年は個人経営体当たりの栽培面積

1) -② 日本茶の荒茶価格の動向

- お茶の価格は、①茶種による価格差、②茶期による価格差等が大きく、これに品質に応じた価格差が加わるため、**生産者によって大きな差**が生じる。
- **2025年産一番茶**は、前年と比較して鹿児島県で約4割、静岡県で約2～3割**高い価格**で取り引き。

【お茶の価格の推移（普通煎茶・荒茶）】



資料：全国茶生産団体連合会調べ

【茶期毎の価格の推移（2024年産荒茶）】

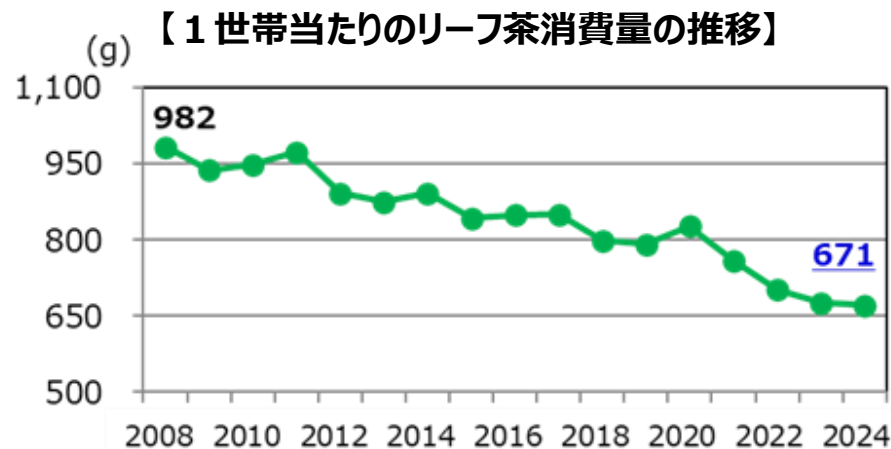
単位：円/kg

	おい茶			せん茶	玉緑茶	番茶	その他緑茶
	玉露	かぶせ茶	てん茶				
一番茶	2,637	2,219	3,891	1,800	2,196	510	1,317
二番茶	-	898	1,990	657	751	282	681
三番茶	-	-	-	483	501	368	165
秋冬番茶	-	-	-	455	-	384	530
全茶期平均	2,637	1,659	3,278	1,197	1,804	397	800

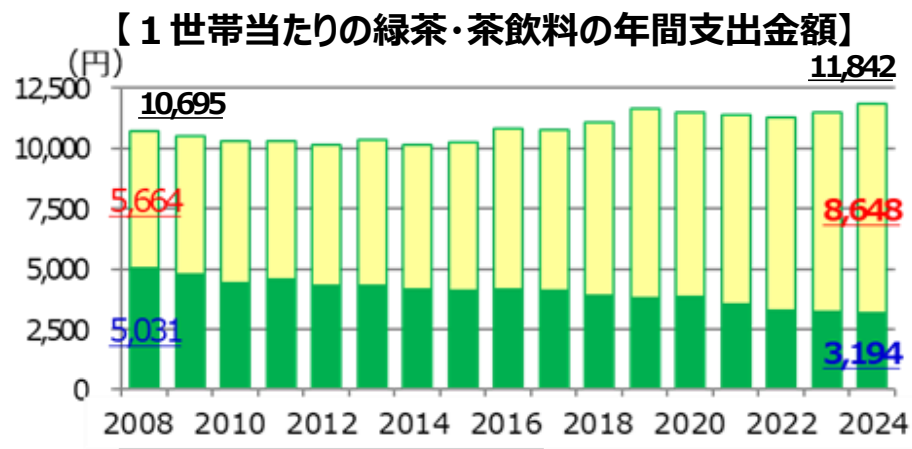
資料：全国茶生産団体連合会調べ

2) -① 日本茶の消費動向

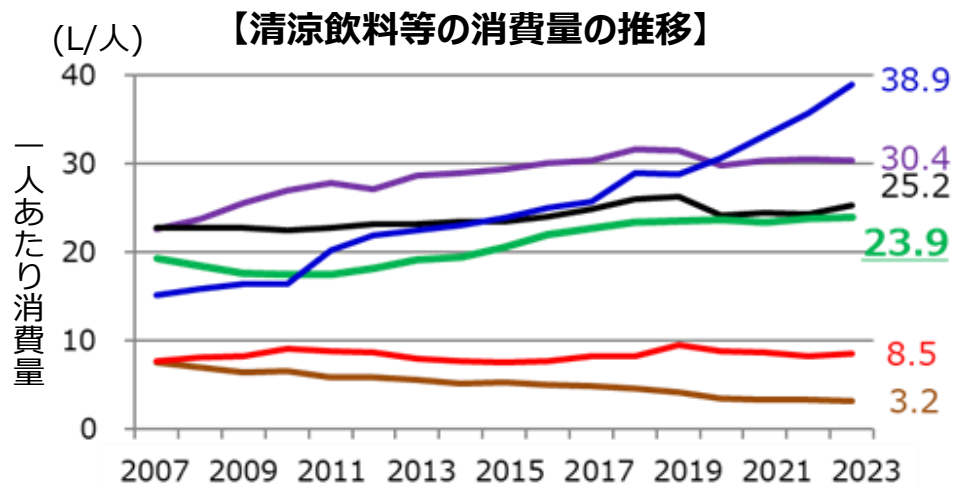
- **緑茶（リーフ茶）** の消費量は**減少傾向**。
- 一方、簡便化志向等で**緑茶飲料**の消費量は**増加傾向**。
- 年齢別 1 世帯当たりの年間支出額は、**年代が低いほど少なく、年代が高いほど多い**特徴。



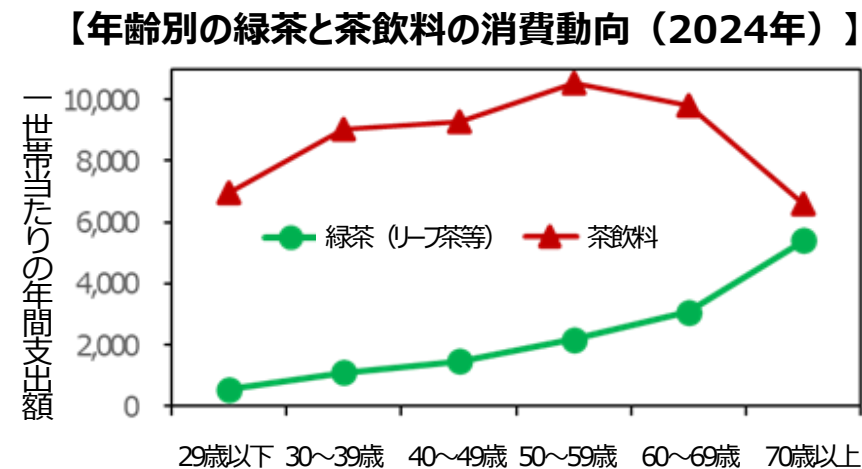
資料：総務省家計調査



資料：総務省家計調査



資料：(一社)全国清涼飲料連合会、総務省人口推計



資料：総務省家計調査

2) -② 日本茶の輸出動向（輸出実績）

- 米国やEU等における健康志向や日本食への関心の高まり等を背景に、**輸出額は大きく増加**。**2024年の輸出額は364億円**（前年比25%増）と**過去最高を更新**し、輸出拡大実行戦略の目標（2025年：312億円）を前倒しで達成。
- **抹茶**を含む粉末状の緑茶の**需要が拡大**しているほか、**有機栽培茶**に対するニーズが高い。

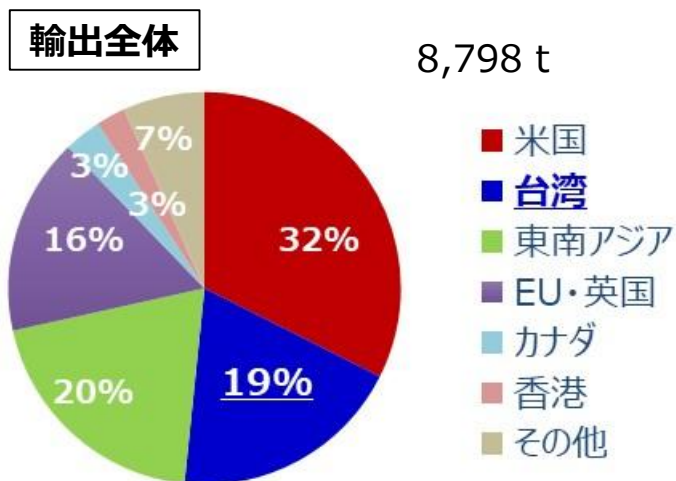


資料：財務省貿易統計

2) -③ 日本茶の輸出動向（海外需要）

- 輸出先国・地域では**米国**が最も多く（輸出額の5割、輸出量の3割）、次いで**ASEAN**、**台湾**が多い（輸出量の各2割）。2024年は**EU**、**ASEAN**向けが大きく増加。
- **米国向け**は主に抹茶ラテやスイーツ等の食品原料として使われる**粉末状茶**が**8割**を占める一方、**台湾向け**は**その他（リーフ茶等）**が**9割**を占めるなど、輸出先国・地域により差がある。

【輸出先国・地域別輸出量シェア（2024年）】

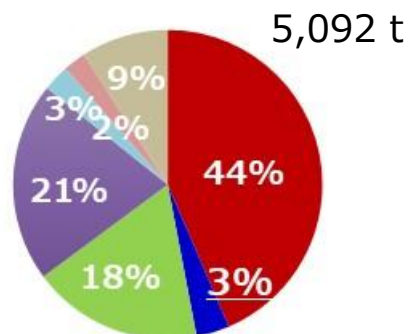


【国・地域別の形状別緑茶輸出実績（2024年）】

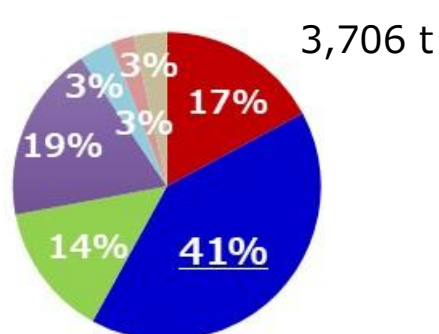
	輸出量 (t)			輸出額 (百万円)		
	粉末状	その他	合計	粉末状	その他	合計
米国	2,217 (78%)	636 (22%)	2,852	12,907 (80%)	3,162 (20%)	16,069
EU・英国	909 (64%)	521 (36%)	1,430	5,639 (76%)	1,780 (24%)	7,419
台湾	177 (10%)	1,514 (90%)	1,691	805 (35%)	1,474 (65%)	2,279
世界・計	5,092 (58%)	3,706 (42%)	8,798	27,197 (75%)	9,183 (25%)	36,380

資料：財務省貿易統計

粉末状の茶



その他（リーフ茶等）



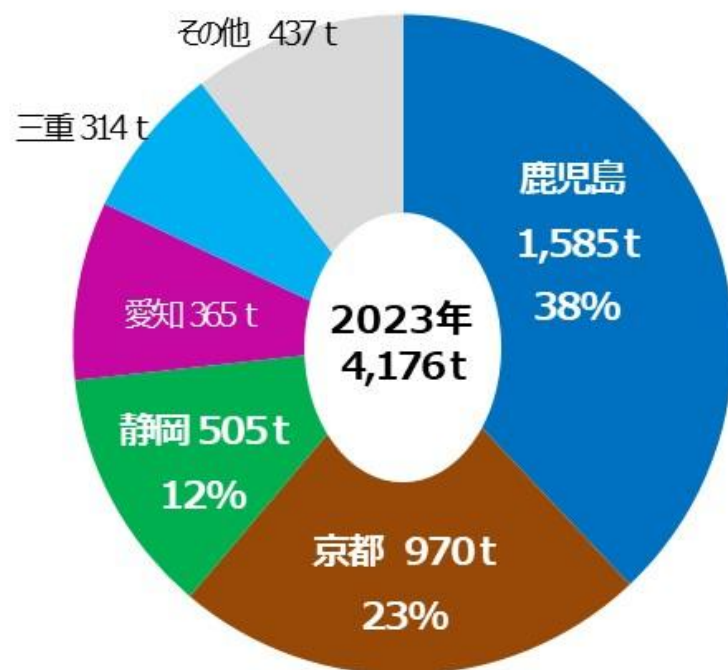
資料：財務省貿易統計



3) -① 日本の茶産地の現状と取り組み

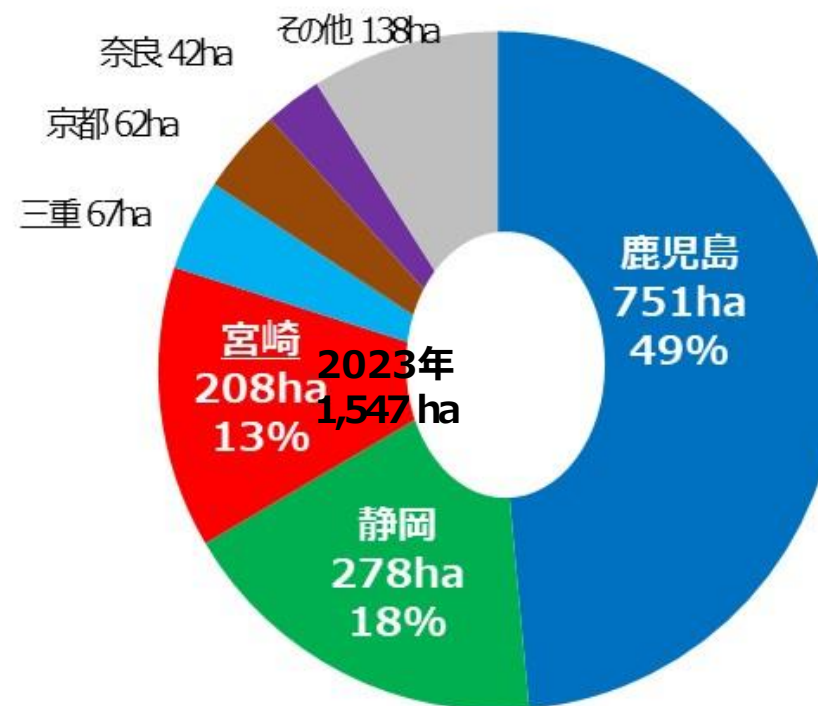
- **てん茶の生産上位県**は、①**鹿児島県**：1,585 t（シェア38%）、②**京都府**：970 t、③**静岡県**：505 tの順。**鹿児島県**では、**せん茶からてん茶への転換**が進んでいる。
- **有機栽培茶**は海外でのニーズも高く、また、残留農薬規制対応の観点からも**輸出に適する**と評され、**米国向けの3割、欧州向けの8割が有機栽培茶**となっている。全国の**有機JASほ場面積（茶畑）**の**約5割**は**鹿児島県**となっている。**宮崎県**は、**茶畑の有機JASほ場面積率が高い**。

【てん茶生産府県（2023年）】



資料：全国茶生産団体連合会調べ

【府県別有機JASほ場面積（茶畑）割合（2023年）】

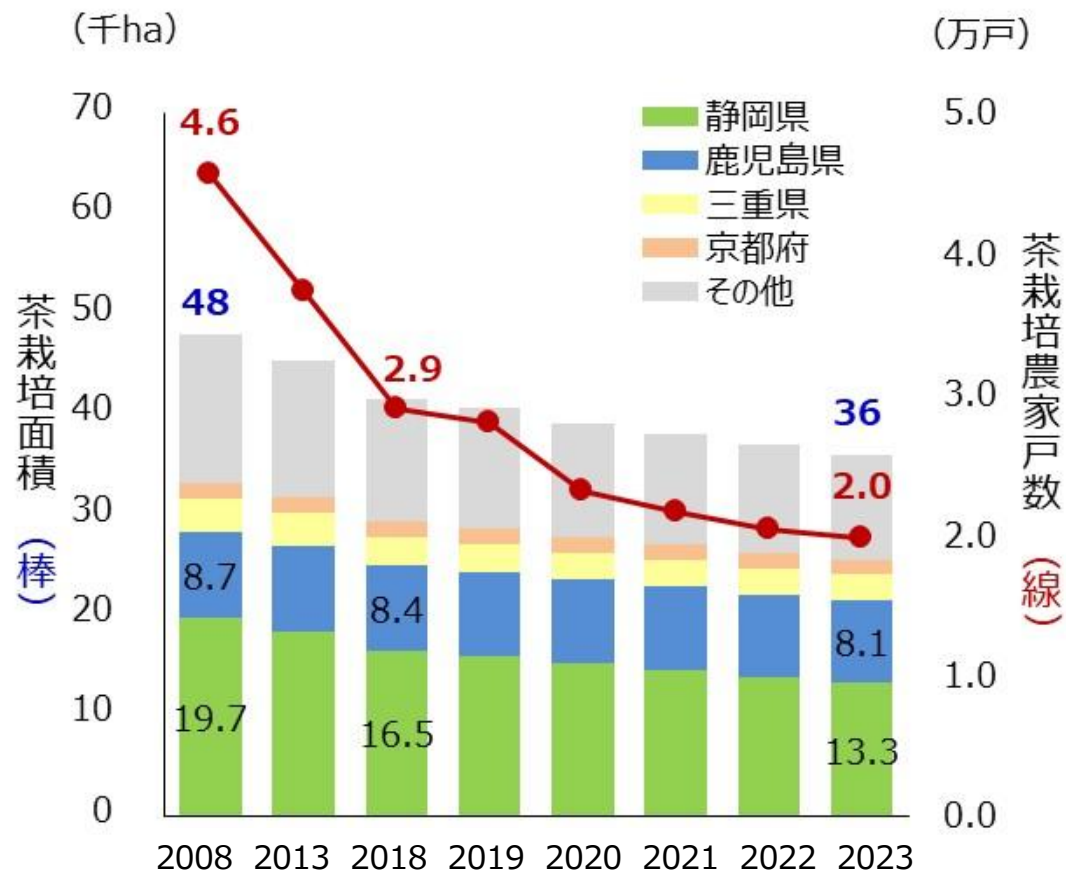


資料：農林水産省調べ

3) -② 日本の茶産地の現状と取り組み

- 茶の栽培農家戸数は約2万戸（2008年比43%）、栽培面積は約3万6千ha（同75%）と大幅に減少。
- 乗用型摘採機の導入割合は全国で69%となっているが、平坦地の多い鹿児島県では98%に上るのに対し、山間地の小區画ほ場や急傾斜の茶園が多い京都府では21%と生産条件により差異。
- ほ場管理作業では、被覆は資材の脱着に技術的な課題が存在するなど、現状では機械化が困難な作業もあり、1戸当たりの栽培面積の増加のネックとなっている。

【茶の栽培面積・栽培農家戸数の推移】



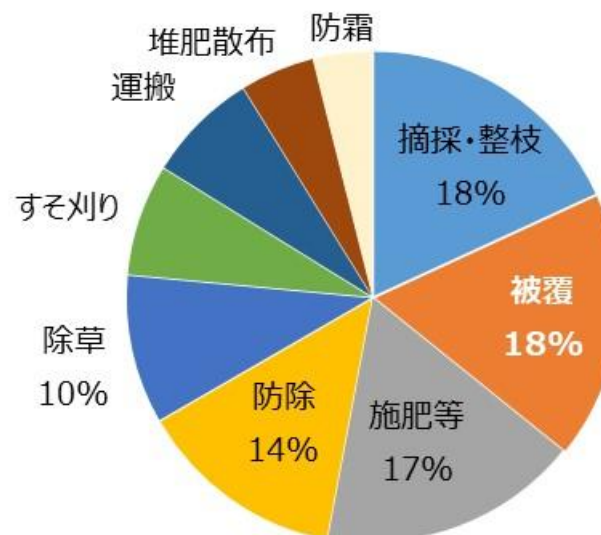
資料：農林水産省「作物統計」、農林水産省調べ

【乗用型摘採機の導入状況（2023年度）】

	導入台数	導入面積(ha)	導入割合(%)
静岡県	3,708	11,124	83.6
鹿児島県	1,350	8,014	98.4
京都府	123	318	20.8
全国計	6,880	24,730	68.7

資料：全国茶生産団体連合会調べ

【ほ場管理作業別労働時間割合】



資料：農林水産省聞き取り

2 新たな基本方針に基づく施策の概要

1) 基本方針の概要 ・新たな基本方針見直しの経緯

これまでの基本方針の策定状況

- 平成23（2011）年4月：お茶の振興に関する法律施行
茶業及びお茶の文化の振興に関する基本方針策定
- 令和2（2020）年4月：基本方針の改正
（消費者ニーズに対応した品質・付加価値の向上、輸出の拡大など）

情勢の変化



【農政全体の動き】

- 令和6（2024）年6月：「食料・農業・農村基本法」改正
令和7（2025）年4月：「食料・農業・農村基本計画」の見直し

【茶業を取り巻く情勢】

- ・生活様式の変化等により、**国内消費が減少し茶価は低迷**
- ・**輸出は過去最高を更新**しており、拡大する**海外需要への対応が重要**
- ・生産者の**高齢化**や繁忙期の**労働力不足**等により、**栽培面積・生産量が減少**

令和7（2025）年4月



「茶業及びお茶の文化の振興に関する基本方針」改正

1) 新たな基本方針に基づく施策の概要

① 茶業及びお茶の文化の振興の振興の意義

- お茶は、高い精神性とおもてなしの心を育む **日本を代表する文化**
- 各地域で **特色ある茶生産** が行われており、
特に **中山間地域** における **重要な基幹作物**
- 生産から加工・流通・販売まで裾野が広く、
地域経済 において **重要な産業**

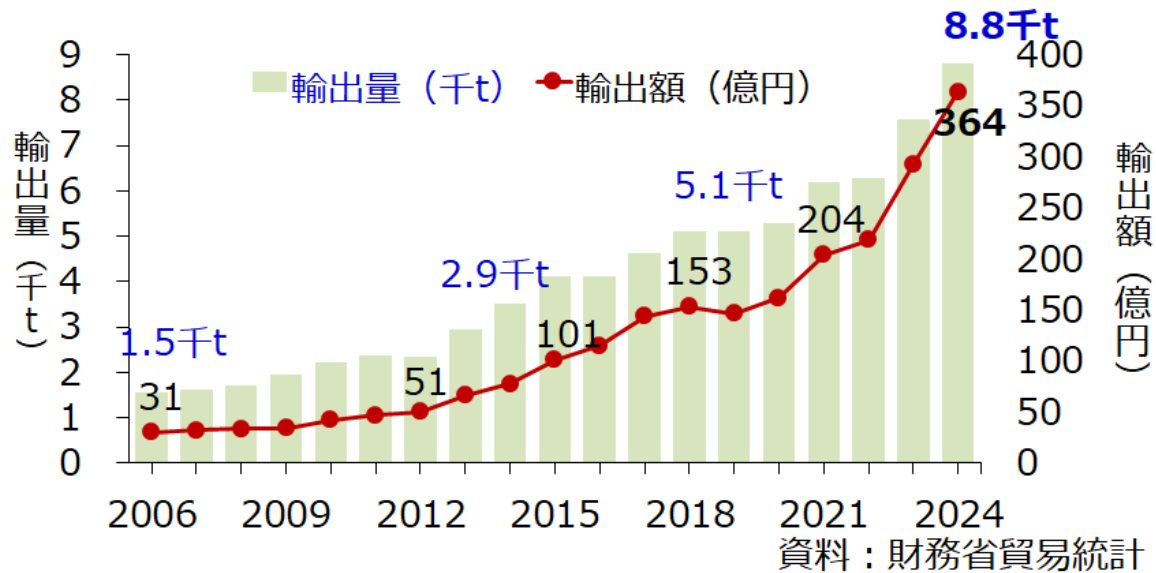
【茶産業のサプライチェーン】



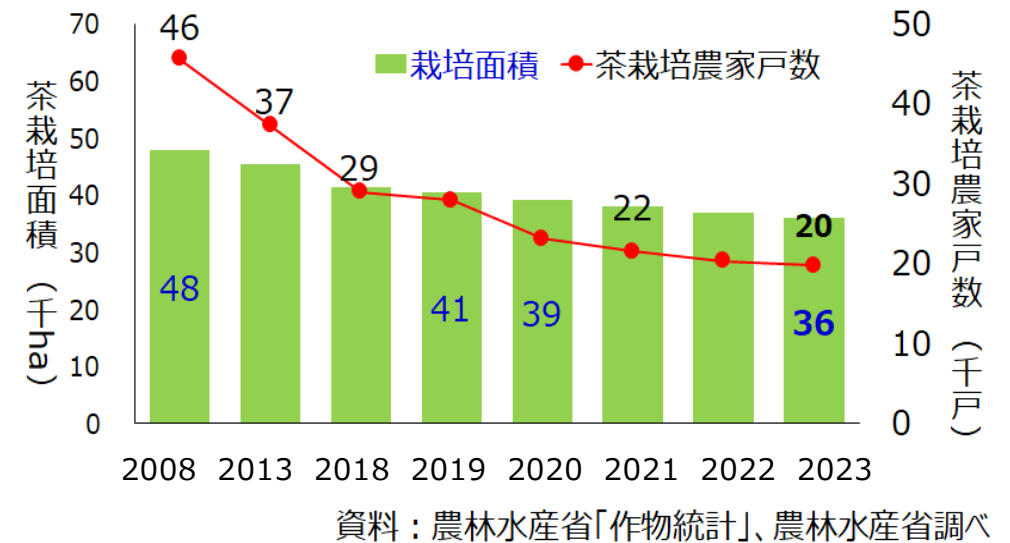
1) -② お茶をめぐる課題

- 生活様式の変化等により急須を用いてリーフ茶を飲用する機会が減少するなどにより**国内消費量が減少**
- **輸出は過去最高**を更新しており、拡大する**海外需要への対応**が重要
- 生産者の**後継者不足**や繁忙期の**労働力不足**等により**栽培面積・生産量が減少**

【緑茶の輸出実績】



【茶の栽培面積・栽培農家戸数の推移】



今後も**茶の生産が減少**すれば、**国内外の需要を満たせなくなる**ことも懸念

1) -③ 今後の茶業及びお茶の文化の振興に関する基本的な方向



2) お茶の需要の長期見通し及び生産数量目標

- 需要の変化に対応した茶生産や生産性の一層の向上等により、**生産量7.5万 t**を維持。
- 海外市場の開拓や輸出産地の形成により、**茶の輸出量を1.5万 t**、**輸出額を810億円**に拡大する目標を設定。

項目	現状値 R5 (2023) 年	目標値 R12 (2030) 年
国内需要の長期見通し	7.1万 t	<u>6.3万 t</u>
輸出数量目標	0.8万 t	<u>1.5万 t</u>
総需要量の長期見通し	7.8万 t	<u>7.8万 t</u>
輸入量の長期見通し	0.3万 t	<u>0.3万 t</u>
生産数量目標	7.5万 t	<u>7.5万 t</u>
輸出額目標	364億円 (R6)	<u>810億円</u>

3) 茶業の振興のための施策

① 輸出の拡大など需要の変化に対応した生産性の高い茶生産の推進

- リーフ茶の消費量の減少、国内外での抹茶の需要の増加といった需要の変化に対応するため、てん茶や有機栽培茶等への転換を推進。
- 茶園の集積・集約化や基盤整備等による生産性の一層の向上等により、生産基盤を強化。

➤ 需要の変化に対応した茶生産の推進

【てん茶の直掛け被覆栽培】



➤ 自然災害や気候変動等のリスクへの備えの推進

➤ 生産性の一層の向上等による
生産基盤の強化

【ロボット茶園管理機】



➤ 需要の変化への対応や生産性向上に資する技術の研究開発・導入の推進

3) 茶業の振興のための施策

② 加工・流通の高度化の推進

○ 需要の高まっている抹茶等の生産拡大に向け、てん茶・抹茶等の加工施設や低温貯蔵施設等の整備の取り組みを推進。

- 加工施設の整備の推進
- 実需者との結びつきに基づく安定取引の推進
- 消費者の信頼確保等のための加工・流通の更なる高度化

【農産物処理加工施設】



【仕上げ茶加工機（抹茶）】



【ネット型乾燥機】



3) 茶業の振興のための施策

③ 輸出の更なる促進

- 輸出額が多い国・地域のみならず、その他の国・地域も含めた多様なニーズを捉え、市場開拓を推進。
- 輸出先の規制やニーズに対応した輸出産地の形成を推進。

➤ 海外市場の開拓の推進

【シンガポールでの日本茶の試飲】



➤ 海外需要に対応した茶生産への転換の推進

【茶園用うね間除草機の市販化】



➤ 輸出産地の形成

【フラッグシップ輸出産地】

輸 出 事 業 者 名
オーガニックティーミヤザキ (宮崎県)
鹿児島県経済農業協同組合連合会 (鹿児島県)
株式会社大石茶園 (静岡県、三重県、京都府、熊本県、宮崎県、鹿児島県)
株式会社流通サービス (静岡県)
株式会社まるゑい (三重県)
京都府農林水産物・加工品輸出促進協議会 宇治茶部会 (京都府)
静岡オーガニック抹茶株式会社 (静岡県)
丸山製茶株式会社 (静岡県)

➤ 輸出先国・地域が求める輸入条件への対応

	インポートトランス申請済み件数		(参考) 令和7年度に申請に向けた支援(データの取得等)を実施する(予定)件数
	(令和6年度末まで)	うち設定・承認件数	
米国	14	12	2
EU・Codex	8	4	3

【インポートトランス申請】

輸出先国・地域において**我が国と同等の残留農薬基準(インポートトランス)**を新たに設定するための輸出先国等への申請を推進

3) 茶業の振興のための施策

④消費の拡大

- 大阪・関西万博の機会も活用し、国内外に対してお茶の魅力を発信。
- 児童生徒向けの茶摘み体験やお茶の淹れ方教室など、お茶を活用した食育の取組を推進。

- 多様な消費者層に向けた
お茶の魅力・情報発信

【簡便化志向への対応】



- **大阪・関西万博**における取り組み

【お茶の淹れ方
デモンストレーション】



【試飲】



- お茶を活用した食育の推進

宇布乃園（静岡県浜松市）

- ・近隣の中学校にて**出前講座を開催し**、煎茶・烏龍茶・紅茶等の**飲み比べ&おいしい淹れ方体験**やお茶の歴史・健康効果を説明。
- ・お茶の魅力やおいしさを知ることができ、**お茶を好きになることができた**、**毎日日本茶を飲む習慣が身についた**といった感想が寄せられた。

【お茶の淹れ方講座】



【茶摘み体験】



4) お茶の文化の振興のための施策

- 茶道などのお茶の文化に関する理解を増進するとともに、新たなライフスタイルを踏まえた新しいお茶の文化を創造していくため、国内におけるお茶の文化の振興に関する取り組みを推進。
- お茶に関する文化財を次世代へ確実に継承するため、文化財保護法に基づき保存・活用。

➤ お茶の文化に関する理解の増進

【茶道体験】



➤ お茶に関する文化財の保存・活用

【国の登録無形文化財「手揉み茶」】



5) 基本方針のポイント (まとめ)

新たな茶業及びお茶の文化の振興に関する基本方針のポイント

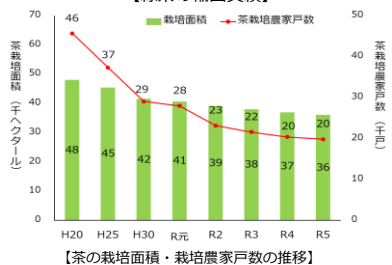
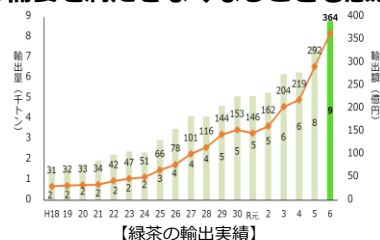
<現 状>

第1-1 茶業及びお茶の文化の振興の意義

- お茶は、高い精神性とおもてなしの心を育む**日本を代表する文化**
- 各地域で**特色ある茶生産**が行われており、特に**中山間地域における重要な基幹作物**
- 生産から加工・流通・販売まで裾野が広く、**地域経済において重要な産業**

第1-2 お茶をめぐる課題

- 生活様式の変化等により急須を用いてリーフ茶を飲用する機会が減少するなどにより**国内消費量が減少**
- **輸出は過去最高を更新しており、拡大する海外需要への対応が重要**
- 生産者の**後継者不足**や繁忙期の**労働力不足**等により**栽培面積・生産量が減少**
- 今後も**茶の生産が減少すれば、国内外の需要を満たせなくなることも懸念**



<施 策 の 方 向>

第1-3 今後の茶業及びお茶の文化の振興に関する基本的な方向

てん茶や有機栽培など**需要の変化に対応した生産**、生産者の減少に対応した**生産性の一層の向上**、海外需要開拓等による**輸出の更なる拡大**、多様な消費者層に向けた**魅力・情報発信**等による**消費の拡大**、**文化に関する理解増進**等の取組を推進する。

第2 お茶の需要の長期見通し及び生産数量目標

国内需要の長期見通し (①)	: 7.1万トン (R5)	→	6.3万トン (R12)
輸出数量目標 (②)	: 0.8万トン (R5)	→	1.5万トン (R12)
総需要量の長期見通し (③=①+②)	: 7.8万トン (R5)	→	7.8万トン (R12)
輸入量の長期見通し (④)	: 0.3万トン (R5)	→	0.3万トン (R12)
生産数量目標 (⑤=③-④)	: 7.5万トン (R5)	→	7.5万トン (R12)
輸出総目標	: 364億円 (R6)	→	810億円 (R12)

第3 茶業の振興のための施策

1 輸出の拡大など需要の変化に対応した生産性の高い茶生産の推進

- ・ **需要の変化に対応した茶生産の推進**
- ・ **生産性の一層の向上等**による生産基盤の強化
- ・ 需要の変化への対応や生産性向上に資する技術の研究開発・導入の推進
- ・ 自然災害や気候変動等のリスクへの備えの推進



【ロボット摘採機】



【有機栽培向け管理機】

2 加工・流通の高度化の推進

- ・ **加工施設の整備**の推進
- ・ 実需者との結びつきに基づく**安定取引**の推進
- ・ 消費者の信頼確保等のための加工・流通の更なる高度化



【てん茶・抹茶加工施設】

3 輸出の更なる促進

- ・ **海外市場の開拓**の推進
- ・ 海外需要に対応した茶生産への**転換**の推進
- ・ 輸出先国・地域が求める輸入条件への**対応**
- ・ **輸出産地の形成**



【プロモーションによる市場開拓】



【船便による輸出】

4 消費の拡大

- ・ 多様な消費者層に向けたお茶の**魅力・情報発信**
- ・ お茶を活用した**食育**の推進



【簡便化志向への対応】



【淹れ方教室や茶摘み体験】

第4 お茶の文化の振興のための施策

- お茶に関する文化財の**保存・活用**
- お茶の文化に関する**理解の増進**



【茶道体験】



【国の登録無形文化財「手揉み製茶」】

お茶で世界を魅了し、次世代へ茶業・茶文化を継承

本日のお話し

1 日本茶産業の現状

- 1) 日本のお茶と生産動向
- 2) 日本茶の消費動向
- 3) 日本のお茶産地の現状と取り組み

2 新たな基本方針*に基づく施策の概要

- 1) 基本方針の概要
 - ①茶業及びお茶の文化の振興の意義
 - ②お茶をめぐる課題
 - ③今後の茶業及びお茶の文化の振興に関する基本的な方向
- 2) お茶の需要の長期見通し及び生産数量目標
- 3) 茶業の振興のための施策
- 4) お茶の文化の振興のための施策
- 5) 基本方針のポイント（まとめ）

3 農研機構の紹介

- 1) 農研機構の組織と沿革
- 2) 最近の研究成果等の紹介



組織

本部

基礎技術研究本部

農業情報研究センター

農業ロボティクス研究センター

遺伝資源研究センター

高度分析研究センター

セグメントⅠ（3部門）

セグメントⅡ（5センター、1部門）

セグメントⅢ（4部門）

セグメントⅣ（3組織）

種苗管理センター

生物系特定産業技術研究支援センター

職員数：3,300人

九州沖縄農業研究センター
@熊本県合志市

<農研機構の紹介動画>

<https://youtu.be/SCJb5DizLRo>



主な研究拠点

北海道農業研究センター
@北海道札幌市

東北農業研究センター@岩手県盛岡市

農業機械研究部門
@埼玉県さいたま市

西日本農業研究センター
@広島県福山市

本部
基礎技術研究本部
食品研究部門
畜産研究部門
動物衛生研究部門
中日本農業研究センター
作物研究部門
果樹茶業研究部門
野菜花き研究部門
生物機能利用研究部門
農業環境変動研究部門
農村工学研究部門
植物防疫研究部門
種苗管理センター
@茨城県つくば市

茶業の試験研究開発を担う拠点 (農研機構)

研究職員；18名
(2025.04現在)

- ★果樹茶業研究部門
 - ・茶業研究領域長
 - ・茶業連携調整役
 - ・茶品種育成・生産G
- ★植物防疫研究部門
 - ・果樹茶生物的防除G



果樹茶業研究部門

茨城県つくば市藤本

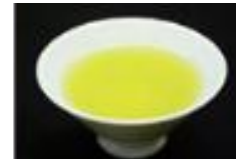
茶の育種法の研究

金谷茶業研究拠点

静岡県島田市金谷



かなえまる



枕崎茶業研究拠点

鹿児島県枕崎市瀬戸町



せいめい



サンルージュ

植物防疫研究部門

静岡県島田市金谷



チャノミトビメコバイ



炭疽病

国の茶業試験研究機関の沿革

- 明治29 (1896) : 農商務省 農務局 製茶試験所 創立 (東京/西ヶ原)
- 明治31 (1903) : 台湾総督府 殖産局 製茶試験場 設立 (台湾) ← !
- 明治33 (1905) : 農商務省 農事試験場 製茶部 に改組 (西ヶ原)
- 大正8 (1919) : 農商務省 茶業試験場 として独立 (静岡/金谷)
- 大正9 (1920) : 茶業練習生 (現・農業技術研修生) 制度開設 (金谷)
- 昭和35 (1960) : 農林省 九州農業試験場 茶業部 設立 (鹿児島/枕崎)
- 昭和36 (1961) : 農林省 茶業試験場 再編・再独立 (金谷・枕崎)
- 昭和61 (1986) : 農林水産省 野菜・茶業試験場 発足 (金谷・枕崎)
- 平成13 (2001) : 独立行政法人化 農業技術研究機構 野菜茶業研究所 に改組
- 平成28(2016) : 農業・食品産業技術総合研究機構 果樹茶業研究部門 に再編
- 令和 3 (2021) : 農研機構 植物防疫研究部門 (金谷) を分離



<研究成果の動画の紹介>

- ◆ 日本文化を象徴する抹茶の新しい挑戦
～世界戦略品種「せいめい」～

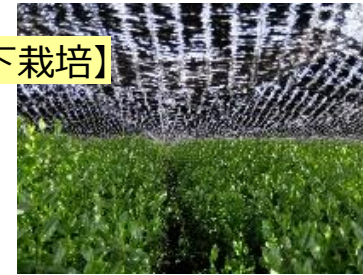
https://youtu.be/yBcrCQwYFA?list=PLW99yTRNzVkJIA_idx



- ◆ 「抹茶」の定義に関する技術報告書
(ISO/TR21380)

「抹茶」は日本起源の技術と明記し、覆下栽培等の「抹茶」の栽培・製造法を紹介。国際規格化△

【覆下栽培】



【碾茶炉】



【茶臼】



【抹茶】



- ◆ 「茶の輸出対応型防除暦の作成指針」
(植物防疫研究部門/公設試ほか連携)

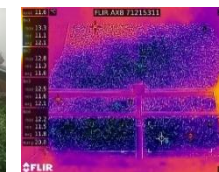
https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/165328.html

輸出相手国毎に異なる残留農薬基準値に対応した茶の総合防除体系を検討し、「輸出対応型防除暦の策定指針」を策定。



- ◆ 茶葉の低温保管システムの開発と作期拡大を可能とする新品種の育成

- ★ 茶葉の低温保管システムを開発、現場実証
- ★ 作期拡大を可能とする新品種の育成



生葉の冷蔵/冷凍保管で高品質茶を安定生産

IOT技術・ロボット化技術を活用した 大規模スマート茶業一貫体系の実証

実証経営体：
鹿児島堀口製茶



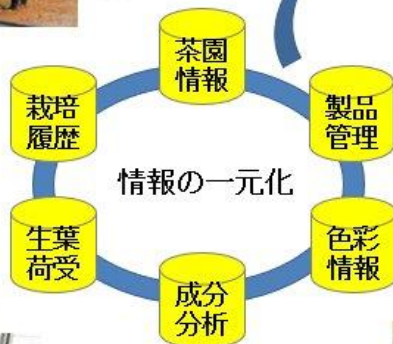
クラウド型農業
支援システム



フィールドサーバー



経営の見える化



RFID製品管理システム



多目的スマート散水技術



生葉荷受けソフト



茶成分分析計



測色色差計

茶生産情報の一元化と見える化



NARO動画



ロボット茶園管理機



プロジェクト報告書

2) 【5GH03】 ローカル5G（鹿児島堀口製茶）

https://www.naro.go.jp/smart-nogyo/r2/files/r2_5g_H03.pdf



3) 【茶C01】（農）茶夢茶夢ランド菅山園など
【静岡県牧之原市、島田市】

https://www.naro.go.jp/smart-nogyo/r1/files/cha_C01.pdf



4) 【茶2F01】（有）北本製茶園【京都・南山城村】

<https://www.naro.go.jp/smart-nogyo/r2/results/kaju-cha/155352.html>



5) 【茶3C1輸】農事組合法人東邦農園【静岡・島田市】

<https://www.naro.go.jp/smart-nogyo/r3/subject/yushutsu/152936.html>



6) 【茶4H1】（農）長崎そのぎ茶萌香園【長崎県・東彼杵町】

<https://www.naro.go.jp/smart-nogyo/r4/subject/kaju-cha/154522.html>



茶のスマート有機栽培体系の開発と現地実証

1. 小型スマート茶園管理機の開発・改良

- ✓ 小型茶園管理機用自動走行装置開発
- ✓ 茶園用うね間除草機の実証



2. 気象・土壌データに基づく有機栽培施肥管理技術の開発



有機質資材の効果的な利用技術の開発



有機質資材の肥効見える化アプリの改良



3. 有機栽培対応型IPM体系の開発と導入



チャノミドリヒメコバイ

行動制御剤
+ 耕種的手法



チャドクガ



ミノガ類



交信攪乱剤



アカイラガ

有機JAS認証
資材の登録拡大

4. 有機栽培の現地実証試験と経営評価



● 現地実証試験

▲ 公設試圃場

現地実証による
開発技術の検証



アグリノート

情報の見える化、経営評価と合理化



農水省Webサイト

農研機構と全国の茶産地の公設試が連携し、有機栽培生産者の課題を抽出し、技術開発を実証

